

## 交付運用報告書

UBS  
サステナブル向上・  
コアバリュー株式ファンド  
愛称：ツイン・アセンダーズ  
追加型／内外／株式

第2期（決算日2024年4月5日）  
作成対象期間（2023年4月6日～2024年4月5日）

第2期末（2024年4月5日）	
基準価額	13,090円
純資産総額	28百万円
騰落率*	38.2%
分配金合計	0円

※騰落率は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算しています。

## 受益者の皆さまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。  
当ファンドは投資信託への投資を通じて、主として世界の上場株式の中から、将来に向けたESG特性の改善が期待され、かつ、長期的な業績見通しとの対比でバリュエーション妙味に優れると判断される企業の株式を実質的な投資対象とし、信託財産の成長を目指して運用を行います。当期におきましても、当該運用方針に沿った運用を行いました。ここに、その運用状況をご報告申し上げます。

引き続き、一層のご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

## UBSアセット・マネジメント株式会社

東京都千代田区大手町一丁目2番1号 Otemachi Oneタワー  
<お問い合わせ先> 投信営業部 03-5293-3700  
(受付時間：営業日の午前9時～午後5時、土、日、祝日除く)

<http://www.ubs.com/japanfunds>

当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を電磁的方法により提供することが定められております。運用報告書（全体版）は以下の方法でご覧いただけます。

<閲覧方法>

上記の委託会社のホームページアドレス⇒「ファンド検索」にファンド名（日経新聞掲載名でも可）を入力⇒表示されたリストの「ファンド名」欄にある当該ファンドの名称をクリック⇒「運用報告書（全体版）」のタブをクリック

なお、運用報告書（全体版）は受益者のご請求により交付されます。書面をご希望される場合には、販売会社までお問い合わせください。

©UBS2024。キーンシボル及びUBSの各標章は、UBSの登録又は未登録商標です。UBSは全ての権利を留保します。

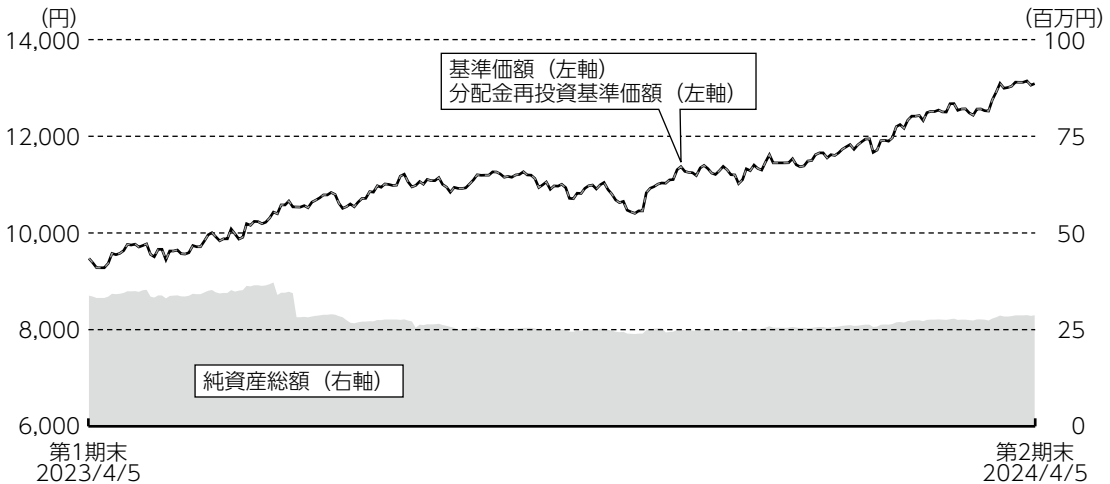


見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

## 運用経過

## 基準価額等の推移について

(2023年4月5日～2024年4月5日)



第2期首： 9,473円

第2期末： 13,090円 (既払分配金 0円)

騰落率： 38.2% (分配金再投資ベース)

- (注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額は、期首の値を基準価額と同一となるように指数化しています。

当期の基準価額は3,617円上昇しました。なお、基準価額の騰落率（分配金再投資ベース）は+38.2%となりました。

## 基準価額の主な変動要因

当期は、実質組入株式の価格上昇に加えて、為替市場における円安の進行もプラスに作用し、基準価額は大幅に上昇しました。

## 1万口当たりの費用明細

項目	当期 2023/4/6~2024/4/5		項目の概要
	金額	比率	
信託報酬	201円	1.793%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ※期中の平均基準価額（月末値の平均）は11,184円です。
（投信会社）	（ 98）	（0.880）	委託した資金の運用の対価
（販売会社）	（ 98）	（0.880）	運用報告書等各種書類の交付、口座内でのファンドに係る管理、購入後の情報提供等の対価
（受託会社）	（ 4）	（0.033）	運用財産の管理、運用指図実行等の対価
その他費用	8	0.072	その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（監査費用）	（ 2）	（0.022）	監査法人等に支払うファンド監査に係る費用
（印刷費用等）	（ 6）	（0.048）	法定開示書類作成の際に業者に支払う作成・印刷・交付等に係る費用（EDINET含む）等
（その他）	（ 0）	（0.002）	受益権の管理事務に関連する費用等
合計	209	1.865	

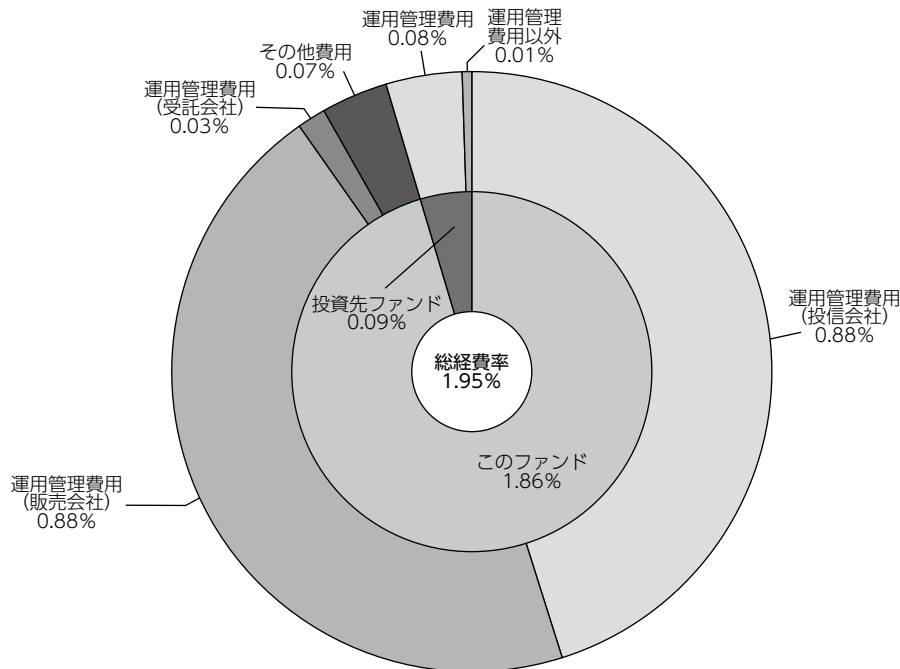
(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は、追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(注4) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。

## (参考情報) 総経費率



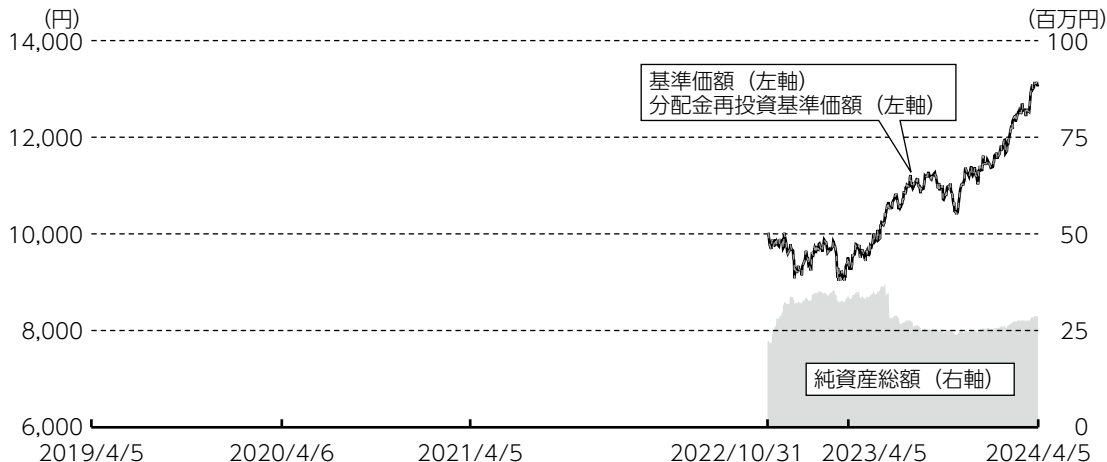
総経費率 (①+②+③)	1.95%
①このファンドの費用の比率	1.86%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.08%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.01%

- (注1) ①の費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。
- (注2) ②・③の費用は、当該投資先ファンドの期中の平均純資産総額で除して算出した概算値です。
- (注3) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。
- (注4) 各比率は、年率換算した値です。
- (注5) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。
- (注6) 投資先ファンドとは、このファンドが組入れている投資信託証券です。
- (注7) ①の費用は、投資先ファンドが支払った費用を含みません。
- (注8) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.95%です。

## 最近5年間の基準価額等の推移について

(2022年10月31日～2024年4月5日)



(注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。

(注3) 分配金再投資基準価額は、設定日（2022年10月31日）の値を基準価額と同一となるように指数化しています。

	2019年4月5日	2020年4月6日	2021年4月5日	2022年10月31日 設定日	2023年4月5日 決算日	2024年4月5日 決算日
基準価額 (円)	-	-	-	10,000	9,473	13,090
期間分配金合計 (税込み) (円)	-	-	-	-	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	-	-	-	-	△ 5.3	38.2
純資産総額 (百万円)	-	-	-	22	33	28

(注) 「分配金再投資基準価額騰落率」および「期間分配金合計 (税込み)」は、表中の直前の決算日または設定日からの騰落率および分配金合計 (税込み) です。

※当ファンドはファンド・オブ・ファンズであり、運用の目標となるベンチマークや投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数（参考指数）はありません。

## 投資環境について

当期のグローバル株式市場は大幅高となりました。期の序盤、米国の底堅い景気動向と企業業績などを背景に、株価は上昇基調をたどりました。2023年8月以降は、金融引き締め長期化観測を背景とした欧米金利の上昇や、中国経済の先行き不透明感、中東情勢の緊迫化などの不安材料が重なる中で、株価は軟調な値動きとなりました。しかし11月に入ると、米国のインフレ鈍化と欧米金利の低下を受けて株価は反発し、さらに12月には、パウエル米連邦準備制度理事会（FRB）議長のハト派的な発言を追い風に一段と値を上げました。2024年の年明け後も、主要先進国が年内に利下げを開始するとの観測や、米国経済のソフトランディング（軟着陸）期待などを背景に、株価は上昇の勢いを維持しました。

## ポートフォリオについて

### 当ファンドのポートフォリオについて

UBS（LUX）エクイティ・ファンドーグローバル・サステナブル・インプルーバー（USD）（JPY）I-B-accおよびUBS短期円金利プラス・ファンド（適格機関投資家向け）を主要投資対象とし、期を通じてUBS（LUX）エクイティ・ファンドーグローバル・サステナブル・インプルーバー（USD）（JPY）I-B-accを高位に組み入れました。

なお、ESGを主要要素として選定した有価証券の組入比率は、上記上場投資信託の純資産総額に対して99.0%\*です。

\* 取得できる直近の数値を記載しています。

### UBS（LUX）エクイティ・ファンドーグローバル・サステナブル・インプルーバー（USD）（JPY）I-B-accのポートフォリオについて

主として世界の市場株式の中から、将来に向けたESG特性の改善が期待され、かつ、長期的な業績見通しとの対比でバリュエーション妙味に優れると判断される企業の株式を中心に投資しました。

#### ●期中の主な動き

##### (1) 投資比率を引き上げた主な業種・銘柄

資本財・サービスでは、米ライドシェア大手の一角であるリフトの追加購入や、米発電機メーカーのジェネラックの新規ポジション構築等によりウェイトを引き上げました。前者は出遅れ感の強さに加えて、外部機関が同社のESGに対する取り組みを過小評価しているとの認識から、ポジションを積み増しました。また後者については、大幅な株価下落で業績面での悪材料を織り込んだとみる一方、エンゲージメントなどを通じてESG特性の改善が期待できるとの判断のもと、組み入れました。

## (2) 投資比率を引き下げた主な業種・銘柄

情報技術では、データセンターやITインフラ分野に強みを持つ米半導体大手のブロードコムによる買収で、株価が大きく上昇した仮想化ソフトの米VMウェアや、通信機器メーカーの米シスコシステムズによる買収合意で株価が急騰したログ管理大手の米スプラUNKをそれぞれ全売却したことなどにより、ウェイトを引き下げました。

※業種はMSCI分類に準拠しています。

## UBS短期円金利プラス・ファンド（適格機関投資家向け）のポートフォリオについて

マザーファンドへの投資を通じて、主としてわが国のコマーシャル・ペーパーを含む短期金融商品および内外の円建ての公社債を実質的な投資対象とし、利息等収入の確保を目指して運用を行いました。当期におきましては、利回りの優位性を勘案しつつ、無利子金融商品やコール・ローン等での運用を行いました。

[当社のスチュワードシップ方針および方針に沿って実施した行動]

- ・ UBSアセット・マネジメント・グループとして、各国のスチュワードシップ・コードならびに関連規制への準拠を表明しており、当社においても日本版スチュワードシップ・コードの受け入れを表明しています。
- ・ 企業のESGに関するパフォーマンスを分析し、特定されたリスクと機会についてエンゲージメントを行い、また一貫して議決権行使を行うことに、資産運用会社として責任を有すると考えています。投資家による積極的なオーナーシップが企業や市場全体の長期的な持続可能性と成功に貢献するものであり、効果的なスチュワードシップは、投資家と企業が直面する環境、社会、ガバナンスの問題を特定し、影響を与える機会を資産運用会社に提供すると考えています。
- ・ UBSアセット・マネジメント・グループのスチュワードシップ方針ならびに実施内容等につきましては、以下のホームページをご参照ください。

<http://japan1.ubs.com/am/pages/importance/ssc>

## ベンチマークとの差異について

当ファンドは、ファンド・オブ・ファンズであり、運用の目標となるベンチマークや投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数（参考指数）はありません。

## 分配金について

当期は、市況動向等を勘案し、分配は行いませんでした。なお、分配にあてなかった利益につきましては、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

### 分配原資の内訳 (1万口当たり・税引前)

項目	第2期
	2023年4月6日~2024年4月5日
当期分配金	-円
(対基準価額比率)	( - %)
当期の収益	-円
当期の収益以外	-円
翌期繰越分配対象額	3,090円

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は、「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注3) 「当期の収益」、「当期の収益以外」は小数点以下切捨てで算出しているため、合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。



## 今後の運用方針

---

### 投資環境の見通し

株式市場はもみ合う展開を予想します。米国では、経済のソフトランディングへの確度が高まる中、企業の業績予想は増勢が保たれています。特に、人工知能（AI）への投資と導入の急増、および収益成長の改善は予想以上であり、全体のバリュエーションも半導体への期待感で正当化されやすい状況となっています。ただし、米国経済への楽観論が強まる中で、利下げ観測が大きく後退する一方、株価は年初から目立った調整もなく大幅に上昇しているため、外部要因への耐久性が試される展開にも注意が必要と考えます。欧州では、欧州中央銀行（ECB）による利下げ観測と欧州株式の相対的に割安なバリュエーションが、引き続き株価のサポート材料になっています。加えて、世界的な製造業の回復も、株価の下値を支える可能性が想定されます。ただし、域内経済は依然として停滞気味であり、当面は地政学リスクや原油高など外部要因による影響を受けやすいとみています。

### 当ファンドの今後の運用方針

UBS（LUX）エクイティ・ファンドーグローバル・サステナブル・インプルーバー（USD）（JPY）I-B-accの投資比率を高位に維持する方針です。

### UBS（LUX）エクイティ・ファンドーグローバル・サステナブル・インプルーバー（USD）（JPY）I-B-accの今後の運用方針

引き続き、主として世界の上場株式の中から、将来に向けたESG特性の改善が期待され、かつ、長期的な業績見通しとの対比でバリュエーション妙味に優れると判断される企業の株式を中心に投資を行い、信託財産の成長を目指す方針です。

### UBS短期円金利プラス・ファンド（適格機関投資家向け）の今後の運用方針

マザーファンドへの投資を通じて、短期金融市場の状況を注視しつつ、コール・ローン等で運用する方針です。

## お知らせ

---

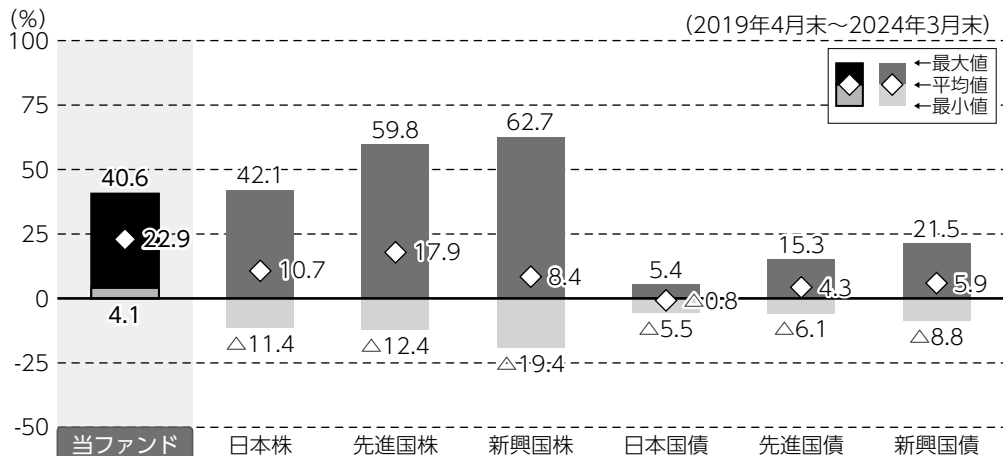
該当事項はありません。

## 当ファンドの概要

商品分類	追加型／内外／株式	
信託期間	無期限	
運用方針	投資信託への投資を通じて、主として世界の上場株式の中から、将来に向けたESG特性の改善が期待され、かつ、長期的な業績見通しとの対比でバリュエーション妙味に優れると判断される企業の株式を実質的な投資対象とし、信託財産の成長を目指して運用を行います。	
主要投資対象	外国投資信託であるUBS (LUX) エクイティ・ファンドグローバル・サステナブル・インプルーバー (USD) (JPY) I-B-acc (以下「指定外国投資信託」といいます) および国内投資信託であるUBS短期円金利プラス・ファンド (適格機関投資家向け) (以下「指定内国投資信託」といいます) の受益証券または受益権を主要投資対象とします。	
	UBS (LUX) エクイティ・ファンドグローバル・サステナブル・インプルーバー (USD) (JPY) I-B-acc	先進国、新興国に上場する企業の株式を主要投資対象とします。
	UBS短期円金利プラス・ファンド (適格機関投資家向け)	UBS短期円金利プラス・マザーファンドの受益証券ならびに内外の円建て公社債を主要投資対象とします。
運用方法	指定外国投資信託の組入れについては高位を維持することを基本とします。なお、指定外国投資信託と指定内国投資信託との投資比率については、収益性と流動性を鑑み特に制限を設けませんが、通常の運用状況においては指定外国投資信託への投資割合を原則として90%以上とします。	
	UBS (LUX) エクイティ・ファンドグローバル・サステナブル・インプルーバー (USD) (JPY) I-B-acc	主として世界の上場株式の中から、将来に向けたESG特性の改善が期待され、かつ、長期的な業績見通しとの対比でバリュエーション妙味に優れると判断される企業の株式を主要投資対象とし、信託財産の成長を目指して運用を行います。
	UBS短期円金利プラス・ファンド (適格機関投資家向け)	直接投資を行う場合の公社債については、原則として、購入時においてS&P、ムーディーズ、格付投資情報センター、日本格付研究所のうち1社以上の格付機関より、Aa3/AA-以上の長期格付けが付与されたものに投資を行います。また、購入時において残存期間が2年以内の公社債とします。 UBS短期円金利プラス・マザーファンドの組入れについては、50%以上を維持することを基本とします。 <UBS短期円金利プラス・マザーファンド> 代表的銀行の3か月大口預金金利を上回る信託財産の安定的な成長を目指して運用を行います。
配分方針	毎決算時 (毎年4月5日。ただし、休業日の場合は翌営業日とします。) に、原則として以下の方針に基づき配分を行います。 ①配分対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた配当等収益および売買益 (評価益を含みます。) 等の全額とします。 ②収益分配金額は、上記①の範囲内で、市況動向等を勘案して委託者が決定します。ただし、委託者の判断で、配分を行わないことがあります。 ③収益の分配にあてなかった利益については、運用の基本方針に基づいて元本部分と同一の運用を行います。	

※資金動向、信託財産の規模および市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

## 代表的な資産クラスとの騰落率の比較



- \* 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
- \* 2019年4月から2024年3月の5年間（当ファンドは2023年10月から2024年3月）の各月末における1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。
- \* 騰落率は直近の月末から最大60ヵ月さかのぼった算出結果であり、当ファンドの決算日に対応したものではありません。
- \* 騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算しており、実際の基準価額に基づいて計算した騰落率と異なる場合があります。

## 各資産クラスの指数

日本株	東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)	東証株価指数 (TOPIX) に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社に帰属します。
先進国株	MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円換算ベース)	MSCIインデックスに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。
新興国株	MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円換算ベース)	
日本国債	NOMURA-BPI国債	NOMURA-BPIに関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。
先進国債	FTSE世界国債インデックス (除く日本、円換算ベース)	FTSE世界国債インデックスに関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。
新興国債	JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド (円換算ベース)	JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P.Morgan Securities LLCに帰属します。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

## 各資産クラスの騰落率について

騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しております。株式会社野村総合研究所および各指数のデータ提供者は、その内容について、信頼性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

## ファンドデータ

### 当ファンドの組入資産の内容

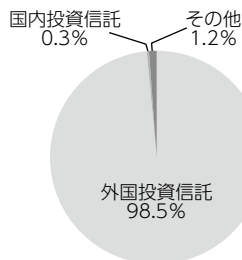
(2024年4月5日現在)

組入上位ファンド（銘柄数：2銘柄）

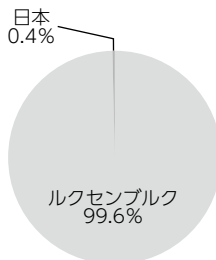
銘柄	比率 (%)
UBS (LUX) エクイティ・ファンドーグローバル・サステナブル・インブルーパー (USD) (JPY) I-B-acc	98.5
UBS短期円金利プラス・ファンド（適格機関投資家向け）	0.3

(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

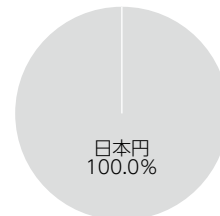
### 資産別配分



### 国・地域別配分



### 通貨別配分



(注1) 「資産別配分」、「通貨別配分」の比率は当ファンドの純資産総額に対する評価額の割合、「国・地域別配分」の比率は当ファンドのポートフォリオ部分に対する評価額の割合です。

(注2) 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、「運用報告書（全体版）」をご覧ください。

### 純資産等

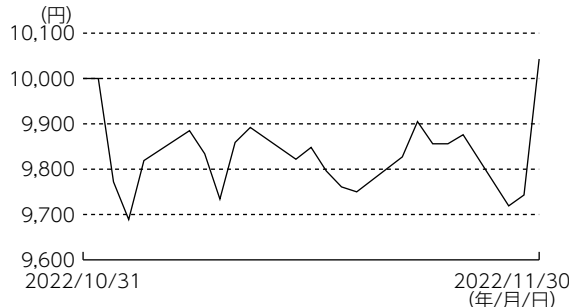
項目	第2期末 2024年4月5日
純資産総額	28,733,307円
受益権総口数	21,949,796口
1万口当たり基準価額	13,090円

(注) 当期（第2期）中における追加設定元本額は5,342,174円、同解約元本額は19,068,756円です。

組入上位ファンドの概要

(2022年11月30日現在)

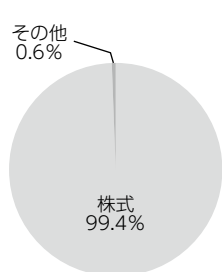
◆UBS (LUX) エクイティ・ファンドーグローバル・サステナブル・インプルーバー (USD) (JPY) I-B-acc  
 基準価額の推移 (2022年10月31日～2022年11月30日)



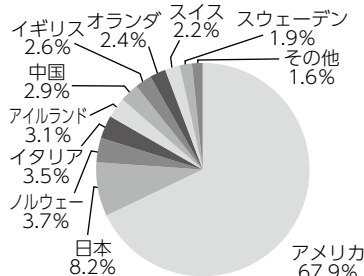
組入上位10銘柄 (銘柄数合計: 55銘柄)

銘柄名	国/地域	比率(%)
DANAHER CORP COM USD0.01	アメリカ	3.5
SLM CORP COM USD0.20	アメリカ	2.9
EQUINOR ASA NOK2.50	ノルウェー	2.8
BUNGE LIMITED COM USD0.01	アメリカ	2.7
LAB CORP AMER HLDG COM USD0.1	アメリカ	2.6
TJX COS INC COM USD1	アメリカ	2.6
LONDON STOCK EXCH ORD GBP0.06918604	イギリス	2.5
WELLS FARGO & CO COM USD1 2/3	アメリカ	2.5
INGERSOLL RAND INC COM USD1.00	アメリカ	2.5
ERIE INDY CO CL A	アメリカ	2.5

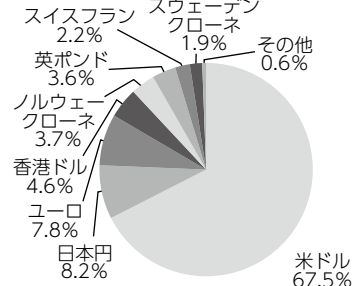
資産別配分



国・地域別配分



通貨別配分



- (注1) 「基準価額の推移」は組入ファンドの直近の計算期間、「組入上位10銘柄」、「資産別配分」、「国・地域別配分」、「通貨別配分」は組入ファンドの直近の決算日現在のものです。
- (注2) 「組入上位10銘柄」、「資産別配分」、「通貨別配分」の比率は組入ファンドの純資産総額に対する評価額の割合、「国・地域別配分」の比率は組入ファンドのポートフォリオ部分に対する評価額の割合です。
- (注3) 「国・地域別配分」は、発行国・地域または投資国・地域を表示しております。
- (注4) 「通貨別配分」はポートフォリオ部分について表示しており、預金およびその他資産（負債控除後）は「その他」に含めて表示しております。
- (注5) 上記のポートフォリオの内容は、監査済みアニュアルレポートの情報に基づき作成しています。

1万口当たりの費用明細

当該情報は開示されていないため、記載しておりません。

## 組入上位ファンドの概要

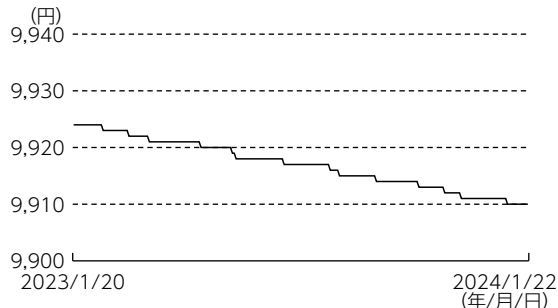
(2024年1月22日現在)

## ◆UBS短期円金利プラス・ファンド (適格機関投資家向け)

基準価額の推移 (2023年1月20日～2024年1月22日)

組入上位銘柄

2024年1月22日現在、有価証券等の組入れはありません。

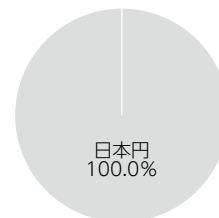


資産別配分

国・地域別配分

通貨別配分

2024年1月22日現在、有価証券等の組入れはありません。



(注1) 「基準価額の推移」は組入ファンドの直近の計算期間、「組入上位銘柄」、「資産別配分」、「国・地域別配分」、「通貨別配分」は組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

(注2) 「組入上位銘柄」、「資産別配分」、「通貨別配分」の比率は組入ファンドの純資産総額に対する評価額の割合、「国・地域別配分」の比率は組入ファンドのポートフォリオ部分に対する評価額の割合です。

(注3) 上記のポートフォリオの内容は、組入れられたファンドの投資資産を表示しております。なお、直接投資しているのはマザーファンドですが、「組入上位銘柄」、「資産別配分」、「国・地域別配分」、「通貨別配分」はその先の投資資産を表示しております。

## 1万口当たりの費用明細

項目	当期 2023/1/21～2024/1/22	
	金額	比率
信託報酬	4円	0.044%
(投信会社)	(1)	(0.011)
(販売会社)	(0)	(0.001)
(受託会社)	(3)	(0.032)
その他費用	0	0.003
(その他)	(0)	(0.003)
合計	4	0.047

※期中の平均基準価額は9,917円です。

(注1) 「1万口当たりの費用明細」は、直近の計算期間のものです。費用項目の概要については、2ページ「1万口当たりの費用明細」の項目の概要をご参照ください。

(注2) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は、追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注3) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注4) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。